

## ジェットスター・ジャパン 累積搭乗者数4000万人達成

ジェットスター・ジャパン(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:片岡優)は、昨日、2012年7月の就航からの累積搭乗者数が4000万人を突破しましたことのお知らせします。



2022年7月運航予定のエアバスA321LR

ジェットスター・ジャパン代表取締役社長の片岡優は次のようにコメントしています。  
「就航から10周年という節目の年に、累積搭乗者数4000万人を達成できたことを大変嬉しく思います。これもひとえにご利用いただきましたお客様、また就航より多方面でご支援いただきました関係者皆様のおかげと心より御礼申し上げます」

「これまでコロナ禍で航空業界全体が大きく後退せざるを得ない状況にありましたが、ジェットスターは、このコロナ禍から脱却し次なる成長ステージに向かう中で、『ゲームチェンジャー』となるエアバスA321LR型機を7月に導入する予定です。従来型機に比べ燃費効率が約15%向上し環境負荷の低減に貢献するほか、モバイル端末ホルダー<sup>※</sup>やUSBポートを各座席に設置することで、より快適な空の旅を提供します。また、当機材は現在保有するエアバスA320型機よりも座席数が58席多くなります。LCCの強みである低運賃をより多くのお客様に提供できるよう、今後も努力してまいります」

<sup>※</sup>1列目など一部設置されていない座席があります

今年7月、就航10周年を迎えるジェットスター・ジャパンは、A321LR導入に合わせて新たなキャンペーンスローガン「[飛べ飛べエビバディ!](#)」をスタートしました。就航から10周年の感謝の気持ちを込めて、日々運航に携わる若手社員による[記念ビデオ](#)を制作しました。今後も就航10周年を記念して各種イベントやプロモーションを実施します。

ジェットスターは、「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして、今後も安全・安心を第一に、より多くのお客様に気軽に楽しい空の旅を提供してまいります。

**【ジェットスター・ジャパンについて】**

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012年7月より日本国内線、2015年2月からは国際線の運航を開始しました。現在、国内15都市・17路線を運航。就航から4000万人以上のお客様にご利用いただいています。ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。

<https://www.jetstar.com/jp/ja/home>